

農作物技術情報 第8号 野菜

発行日 平成29年10月26日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ 来年の安定生産に向けて（残さの処分、資材消毒、土づくりの実行）
- ◆ 施設野菜 省エネ対策技術の積極的な実施
- ◆ 寒締めほうれんそう ハウスの開閉による生育調節と品質を確保した適期出荷
- ◆ 促成アスパラガス 低温遭遇時間を考慮した適期掘り取りによる収量向上

1 生育概況

- (1) 果菜類の収穫は終盤となり、出荷量は少なくなっています。
- (2) 雨よけほうれんそうの生育は概ね順調です。病虫害は、コナダニ類、アブラムシ類が一部の圃場で見られます。寒締めほうれんそうの播種は終了し、概ね順調に生育しています。
ねぎの生育は概ね順調で、順次収穫が行われています。病虫害は、葉枯病、さび病、べと病の発生が多く見られます。

2 技術対策

(1) 栽培跡地の整理と来年への準備

栽培終了後の作物残さは適切に処分し、翌年の病虫害発生源とならないようにしましょう。
きゅうりで褐斑病が毎年多発する圃場では、支柱や灌水チューブなどの資材に付着した分子が翌年の発生源になります。残さの後片づけと資材消毒を行い、翌年の発生源を排除しましょう。
ピーマンでは、根の残さで土壤伝染性ウイルスのPMMoVが越年します。残さのすき込みは土壤中のウイルス密度を高め、抵抗性打破の危険性が高まるので絶対に避けましょう。
なすでは、半身萎凋病の罹病葉に形成された菌核が次年度の発生源となりますので、発生圃場では葉を確実に圃場から持ち出し処分しましょう。
また、来年の安定生産に向けた土づくりを実践しましょう（図1）。

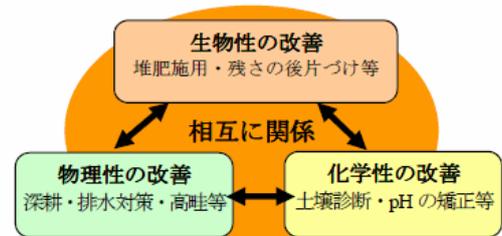


図1 土づくりで重要な三つの性質

(2) 野菜畑での施肥管理について

県内の野菜畑では、可給態リン酸や交換性カリウムなどが土壤改良目標値を満たした圃場が多く、中にはリン酸が無施用でもよい水準まで蓄積している事例もあります。土壤分析の結果、土壤改良目標値を満たしている圃場では、作物による肥料成分の吸収量や、浸透水による養分の溶脱量など、「土壤から持ち出された肥料成分を施肥で補給する」補給型施肥基準を適用するとともに、土壤養分の過剰が明らかな場合には、減肥基準に基づき適正な施肥管理に努めましょう（図2）。

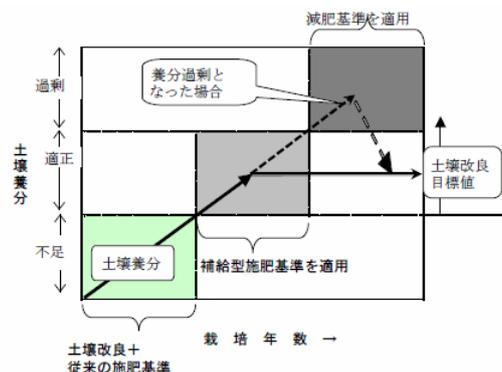


図2 土壤養分に応じた施肥管理基準の適用

(3) 施設野菜

燃油費や資材費等を含めた施設野菜の生産コスト増加は、農家経営に大きく影響します。最小限の燃油で高い加温効果が得られるよう、省エネルギー対策を積極的に実施しましょう。具体的には、
 ア. 暖房装置の点検・整備、清掃による暖房効率の低下防止
 イ. 温室の被覆資材の隙間からの放熱防止
 ウ. 内張資材等の導入による保温性の向上や温室内の温度ムラの解消
 エ. 作物・品種の特性をふまえた生育ステージに合わせた適正な温度管理の実施
 などが挙げられます。

(4) 寒締めほうれんそう

ハウスの開閉により適切な温度管理を行い、出荷できる大きさまで生育させます。低温下で開帳しやすく、葉の縮みも入りやすい地域推奨の品種（「冬霧7」「雪美菜02」等）を選定するとともに、品種の特性に応じた管理を心がけましょう。
 寒締めは、ほぼ収穫できる葉長になった時点で、ハウスの入口やサイドビニールを開放し、1週間程度10℃以下の寒気にさらして行います。十分な低温に遭遇する前に収穫すると品質が劣ることが懸念されますので、出荷時には最大葉の葉柄の絞り汁の brix 糖度が8%以上になっていることを確認し、12月1日以降から出荷しましょう。

(5) 促成アスパラガス

地上部から貯蔵根への養分転流は茎葉が完全に黄化するまで続いています。刈り取りは茎葉が十分に黄化してから行いましょう。

また、十分に低温遭遇した株を利用することで、収量が増加します（図3）ので、5℃以下の低温遭遇時間を考慮して掘り取り時期を決定しましょう。

10月24日までの県内の主なアメダス地点の5℃以下の低温遭遇時間は表1のとおりです。

栽培面積が大きい場合には、掘り取り作業と伏せ込み床の準備を計画的に進めます。

伏せ込み後に、伏せ込み床内の温度を急に上げると収量が少なくなる場合があるので、伏せ込みしてから1週間程度は無加温とし、その後、徐々に温度を上げましょう。

ハウス内の保温対策を万全にし、加温コストをできるだけ低減しましょう。

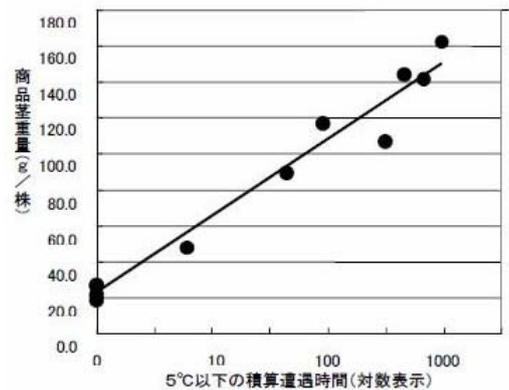


図3 掘り取り前根株の低温遭遇時間と商品茎重量との関係
 (商品茎：5g以上の若茎)

表1 5℃以下積算遭遇時間(10月24日まで)

アメダス地点	二戸	奥中山 ^{※2}	盛岡	北上
5℃以下積算遭遇時間	74	100	30	0
90時間到達見込み ^{※1}	10月27日	10月24日	11月12日	11月23日

※1 10月24日までは各アメダスの本年値、それ以降は昨年と同じ気象推移となった場合、5℃以下の低温遭遇時間が90時間に達する月日

※2 奥中山は10月24日で5℃以下の低温遭遇時間90時間に到達

次号は11月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**いつもの慣れが落とし穴
急がずあせらず 農作業安全**

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。